

まなざし

Vol.19
2021.3

この情報誌は男女共同参画等推進会議の
協力を得て企画・編集しました。

「まなざし」・・・すべての人と人とのがやさしい、あたたかいまなざしで
互いを見つめ、認め合い、誰もが目線を同じにして
相手を思いやる平等な社会にむけて。

～三芳町は、分け隔てなく、誰もが幸福に生きていける共生社会の実現をめざしています。～



共生社会の実現をめざして

～ハンセン病小説『あん』ができるまで～ 講師ドリアン助川さん

もくじ

- P2～P3 新型コロナウイルス禍から見た、男女共同参画・人権への配慮について
- P4 男女共同参画週間／男女共同参画社会づくりに向けての全国会議
- P5 日本女性会議 2020 あいち刈谷／男女共同参画推進フォーラム
- P6 ヒューマンフェスタ 2021
- P7 三芳町パートナーシップ宣誓制度／令和2年度活動報告
- P8 女性相談・男性相談・DV相談・編集後記

三芳町



三芳町キャラクター
のぞみちゃん／みらいくん

今日のはのぞみちゃん、みらいくんの2人と、男女共同参画と人権への配慮について一緒に少し考えてみましょう。

男女共同参画社会って？

男女が互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことです。

男女共同参画社会の実現に向けて国や町は何をしているの？

三芳町では、平成28年度にみよし男女共同参画プランを策定し、令和元年度に見直しを行いました。情報誌の発行やヒューマンフェスタの開催など、住民を中心とした男女共同参画等推進会議の委員と一緒に様々な事業に取り組んでいます。

例えば、6月23日から29日までの1週間「男女共同参画週間」に合わせて、イベントやお知らせをしています。今年度も、中央図書館に図書コーナーや、藤久保公民館にパネル展を設置しました。(別掲4ページ)今年の男女共同参画週間の大きなテーマの1つが「ワーク・ライフ・バランス」についてのことでした。



みんなの話を聞くと、おうちにいる時間が増えたことで、家事や育児を今まで以上に家族で協力し合うチャンスなのかもしれないね。性別役割分担意識ってなんだろう？

社会の中には固定的性別役割分担意識「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えが依然としてあります。

国際的に見て日本は、欧米諸国、特に北欧諸国と比較すると固定的性別役割分担意識は強く残っていると言えます。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について(国際比較)

国名	賛成 (どちらかといえば賛成)	反対 (どちらかといえば反対)
スウェーデン(女性)	4.0%	93.2%
スウェーデン(男性)	8.9%	88.2%
米国(女性)	18.1%	81.0%
米国(男性)	21.7%	76.8%
日本(女性)	36.8%	57.3%
日本(男性)	46.5%	46.1%

【平成19年度男女共同参画白書より】



ワーク・ライフ・バランスって聞いたことあるかも！

ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と家庭生活の調和」のことを指します。

国では、育児・介護休業法などの法律を整備するとともに、「イクメンプロジェクト」や「おとう飯キャンペーン」など、男性が育児や家事に積極的に携わっていただけるような啓発の取組がなされています。

6月29日に行われた「令和2年度男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」では、登壇された川島高之さん(NPO法人ファザーリングジャパン理事)から「スーパーマーケットでの買い物や子どものPTAなどへの参加から、投資感覚の気づきや新たなコミュニケーションの発見があり、仕事への付加価値につながる」といったお話がありました。

令和2年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、外出自粛や在宅勤務によって家庭にいる時間が増えたのではないのでしょうか。家庭や仕事など、生活の中でどんな変化があったのか、周りの人に聞いてみました。



性別役割分担意識について、三芳町のみんなはどう思っているんだろう？

三芳町で平成18年度に行った「三芳町男女平等に関する意識調査」と、平成30年度に行った「三芳町男女共同参画に関する住民意識調査」を比べてみると、この考え方は以前と比べて少しずつ変わってきていることが伺えます。

「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

事項	H18	H30
そう思う	6.0%	5.1%
どちらかといえばそう思う	24.7%	17.3%
そう思わない	42.1%	46.7%
どちらかといえばそう思わない	13.1%	15.0%
どちらともいえない	13.1%	13.2%
無回答	1.0%	2.8%

【平成18年度と平成30年度の調査比較】



国際化の影響もあるのかな？性別で役割を決めつけず、自分のやりたいことにチャレンジしたり、こんな状況だからこそ、お互いの人権を尊重しながら、支え合って生活していくことが必要だね。

リモートワーク中は移動が無くなり、有効な時間の使い方が出来る一方で、家事との切り替えが難しい部分もありました。

コロナ禍で食事を作るが増え、家族内で家事の分担について子ども達と連絡を取り合うようになりました。



コロナ禍の生活では家にいることが多くなった一方で、良かったこともありました。家の人が食事づくりに参加できるようになり時間短縮につながるとともに、食後の洗い物をやってくれるようになりました。そして、なにげない会話も増えました。



良いことを発見した人もいるみたい！その一方で、困ったことはどんなことかな？

「特別定額給付金を夫が独り占めした」「夫が家にいるため、音を立てると怒られた」「3度の食事に追われ自分の時間がなくなった」など、コロナ禍での苦境により、家庭の中にいる女性の悩みが増えているのを耳にします。夫と妻との力関係や、性別役割分担意識の問題が浮き彫りになってきたと感じました。

新型コロナウイルス感染症に関連して、感染された方やその家族、医療従事者に対する誤解や偏見に基づく差別的言動がSNS等で広がるがありました。誰にでも感染する可能性がある今、人権侵害に対する社会全体の意識向上が大切です。新型コロナウイルス感染症に関する正しい情報に基づき、一人ひとりの人権を尊重する気持ちを持って、ウイルスの一日も早い終息に向けて、みんなで行動していきましょう。周りの人からはこんな意見もありました。

令和2年は医療機関の関係者への偏見、罹患者への怒り等、差別や偏見が社会現象となりました。今こそ、人への思いやりや理解が大切なことを痛感しました。「うつらない、うつさない」を常に意識をしてルール、マナーも守り生活を送ることが求められています。コロナ禍をいたずらに恐れず、感染対策や生活の中での家事分担など、自分にできることはやるように心掛けています。



男女共同参画の意識を持ちながら、自分のできる範囲で感染対策に気を配って、マナーを守りながら、身の回りの人を思いやって行動できると良いよね！

かけがえのない“わたし”を生きる ～ものづくりのまちから発信～ 第37回 日本女性会議2020 あいち刈谷

【11月13日(金)～15日(日)】※オンライン開催

性別だけでなく、年齢、国籍、働き方、障がいの有無など、様々な立場にいる人が、それぞれ「かけがえのない存在」として尊重される社会の実現を目指す「みんなの会議」として開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンライン開催となりました。



▼ 基調講演 「コロナ禍とジェンダー」 講師 上野千鶴子さん

コロナ禍の社会をジェンダー視点で読み解く講演が行われました。選挙により選ばれた各国の女性のリーダーは世界全体で約7%と少数ですが、新型コロナウイルスに関する対応力が高いと評価されているようです。

国のトップだけではなく、皆さんの会社や学校などでリーダーになることに性別や年齢は、関係ありません。

▼ ～分科会を視聴して～

分科会A 人生100年時代 ～高齢者のつながりづくり～

人生100年時代の今、4人に1人が高齢者で、加齢とともに生きづらさを感じる人が多くいます。地域の仲間たちとプロジェクトを作りイベントや展覧会を開いたり、地元の特産品販売等を行うことで、地域を通して人とのつながりが生まれ、生きがいを見いだせます。つながりを大事にしながら、健康で楽しく長生きすることは最高の幸せだと感じました。

分科会C

だまっとれん! コロナ禍でもDVを生み出さない社会へ

講師は、DV被害から離脱した方が新生活を築くまでのサポートに尽力されています。そのお話を聞き、支援の難しさを思い知りました。特に、DVのある家庭の子どもに対して、周りの大人が見守っていく地域としての取組や、信用できる第三者の大人に話してみよう促すことが必要という話が印象的でした。私達大人が温かいまなざしを持ち、子どもたちのちょっとした変化を見守っていくことが大事だと感じました。

分科会B 多様性を生かした地域づくり ～“多文化”を地域の魅力に!～

外国人住民は日本語を話せても、社会的なルールまでを理解することが難しいと感じています。地域との交流は、国際交流を主体とする団体が出発点になることが多いと知りました。行政側の情報発信については翻訳のしやすいインターネットを活用するなど、受け取り手を考えた工夫が必要だと学びました。

分科会G 生と性の多様性をみとめあうために ～教育・企業・行政の立場から～

自らも性同一性障害をカミングアウトした中学校の教員から、マイノリティについて「特別視せず、仲間として共に過ごす志を示す、ただそれだけでほっとする人がたくさんいる。」「個々の“こうしたい”に寄り添う集団とあなたの気づきや言動が周りの人を笑顔にします。」とのメッセージが心に残り、さらに多様性を認め合い、人を尊重する一人ひとりの心の豊かさが今一番求められていると感じました。

男女共同参画推進フォーラム

【8月27日(木)～9月26日(土)】※オンライン配信

男女共同参画の推進に関心のある人々が課題を共有し、解決策を探るイベントで、令和2年は「つなぐ、新たな明日へ～女性も男性も暮らしやすい社会を創る～」をテーマにし、オンラインで配信されました。

登壇された弁護士の林陽子さんは、暴力がない社会は、人権が守られ住みやすい社会であると話していました。住みやすい社会の実現のため、一人ひとりにできる大切な取組は下の5つです。

- ① DVや性暴力について知る
- ② 自分事としてとらえる
- ③ 暴力をふるわない
- ④ 被害者を守り、支援する
- ⑤ 社会的取組の基盤を整える

男女共同参画週間

「そっか。いい人生は、いい時間の使い方なんだ。」「ワクワク・ライフ・バランス」
【6月23日(火)～29日(月)】

男女共同参画社会基本法の公布・施行日である6月23日から29日までの1週間は、「男女共同参画週間」です。令和2年度のキャッチフレーズは、「そっか、いい人生は、いい時間の使い方なんだ。」「ワクワク・ライフ・バランス」です。三芳町では住民の皆さんに男女共同参画に関する理解を深めていただくため、中央図書館に男女共同参画関連図書コーナーを設置しました。ヒューマンフェスタで昨年度講演いただいた、社会学者の上野千鶴子さんの著書や令和2年度講演動画を配信したドリアン助川さんの著書を配架し、キャッチフレーズに合わせて、働き方や家庭での過ごし方に関する本も紹介しました。これらの書籍は今も中央図書館にて貸し出しをしていますので、興味のある方はぜひ足を運んでみてください。

また藤久保公民館ロビーでは、「Women 現代の吟子たちに聞く」パネル展を行いました。タイトルの荻野吟子は埼玉県生まれで、多くの困難を乗り越え、日本で最初の女性医師になった人物です。埼玉県では男女共同参画の推進に顕著な功績のあった個人や団体等に「さいたま輝き荻野吟子賞」を贈っており、このパネル展では同賞を受賞された方へのインタビューを通し、自分らしく生きるためのヒントや様々な苦労や壁にぶつかる中でどのように乗り越えたかなどの紹介をしました。



男女共同参画社会づくりに向けての全国会議

【6月29日(月)】※オンライン配信

男女共同参画週間の期間中の6月29日に全国会議が開催されました。令和2年度は、東京国際フォーラムから全国にオンライン配信形式で開催される形となりましたが、自分らしい人生を実現するために、どのように時間を使ってバランスをとれば良いかについて話し合いが行われました。

- 従来または今の日本人の生き方は、約20年勉強して約40年働き、その後に定年＝引退＝老後という考えが強い。しかし今は人生100年時代で、時代の変化も激しいため、リカレント教育(就労してからも学校等に通うなどして学び直し続けること)が必要。海外ではこの流れが進んでいる。
……大野 誠一さん(ライフシフトジャパン株式会社 代表取締役 CEO)
- 日本の社会人の読書率は先進国30カ国中29位である。仕事に関するスキルはアウトソーシングが出来るため、仕事以外のことについて学ぶ必要がある。アートや歴史、哲学を学んでいる人ほどいい仕事をする。これらは人間として必要なものだとよく言われている。
……川島 高之さん(NPO法人ファザーリングジャパン理事)
- 女性の再就職について、予め家庭の中で役割分担をシミュレーションした上で、妻が再就職をすることが理想であり、家庭のサポートが必要。
……坂本 清恵さん(日本女子大学生涯学習センター所長)

～誰もが安心して暮らせるまちへ～三芳町パートナーシップ宣誓制度が始まります

町では、一人ひとりが互いに人権を尊重しあいながら、誰もが自分らしく生き生きと暮らせる共生社会の実現を目指しています。これまでに共生社会への取組として、あいサポート運動や手話言語条例の制定、町在住パラリンピアンによる講演会やパラスポーツ体験会の実施、学校公共施設のバリアフリー化などを行ってきました。新しい取組の1つとして、令和3年4月1日から「パートナーシップ宣誓制度」を開始します。

この制度は、日常生活において相互に協力し合うことを約束した、LGBTに代表される性的少数者のカップルが相互にパートナーであることを宣誓し、町が証明するものです。

宣誓により法律上の効果が生じるものではありませんが、2人がパートナーであるという事実を対外的に証明することで、性的少数者の困難や生きづらさが少しでも軽減し、安心した生活につながることを期待されます。

詳しくは総務課人権・庶務担当(049-258-0019 内線404)にお問い合わせください。

LGBTって？

…性的少数者の総称の1つです。

- L…レズビアン。心の性が女性で、女性を好きになる人
- G…ゲイ。心の性が男性で、男性を好きになる人
- B…バイセクシュアル。恋愛対象が女性にも男性にも向いている人
- T…トランスジェンダー。「身体の性」と「心の性」が一致せず、「身体の性」に違和感を持つ人

どんな人が宣誓できるの？

…次の全てに該当する必要があります。

- ・双方が成年(20歳)に達していること
- ・双方が町内に住所を有しているか、町内に転入を予定していること
- ・双方に配偶者(事実婚を含む。)がなく、他の人と宣誓をしていないこと
- ・双方が近親者でないこと

令和2年度 三芳町男女共同参画等推進会議 活動報告

推進会議は人権擁護委員等の識見を有する者や、協働のまちづくりネットワークや更生保護女性会など各種団体から選出された者、公募で選ばれた住民等が集まり構成されています。

三芳町における男女共同参画社会の形成に向けて、行政や企業・住民への意識啓発、情報の発信など、町の特色を生かした事業の展開について幅広く意見交換を行い取り組んでいます。

共生社会推進懇談会

令和2年度よりスタートした共生社会推進懇談会へ、推進会議より代表者が参加しています。

区長会と男女共同参画等推進会議による災害対策検討会議

12月8日には区長会と合同で、災害対策検討会議を開催しました。これに関連して日本女性会議の分科会では、アウトドアから学ぶ家庭での防災のお話があり、情報共有を行いました。その一部をご紹介します。



Topic～日頃からできる家庭での防災準備～

- 毎日決まったところにレトルトや缶詰などを置いておき、場所が分かるようにしておく。
- 防災グッズをまとめる時は、登山時と同じように重いものは上に、女性が持てる重さに。
- 災害の時は水を流せないことがあるので、水を使わなくても食べることができる料理を普段から作ってみる。水を使わないトイレを用意しておく。
- 普段から車中泊をやってみる。暑さ寒さ対策として車の窓にプチプチを貼るなどの工夫を。



ヒューマンフェスタ2021

共生社会の実現をめざして 1月23日(土)※動画配信

～ハンセン病小説『あん』ができるまで～

講師 ドリアン助川さん

(明治学院大学国際学部教授・作家・歌手)

ヒューマンフェスタ2021は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、無観客での動画配信の形に切り替え実施しました。

講師のドリアン助川さんは、作家や歌手として幅広く活躍をされながら、大学で哲学や文学を学生と一緒に研究されています。令和2年8月に三芳町ホームページで公開した映画『スタートライン』の今村監督と親交があるほか、長野パラリンピックの大会歌『旅立ちの時』の作詞もされており、マレーシアの「共生社会ホストタウン」になっている三芳町と縁を感じているとお話をされていました。

ドリアンさんは20代の頃から、ラジオの深夜放送で10代の若者の怒りや悲しみを聞く番組のパーソナリティをしていました。若者に生きる意味を聞いたときに、口をそろえて「社会の役に立つために生まれてきた」と答えたといいます。本当に人間は社会の役に立つためだけに生きているのか…。このことから、「らい予防法」が廃止されるまで一生隔離をされ続けてきた※ハンセン病患者達を背景に、新しい視点で人の生きる意味を書こうと決心をしました。

※ハンセン病を正しく

理解しましょう。

埼玉県HPはこちら→



執筆活動は難航しましたが、とあるNPO団体へ出向いて歌手としてライブをしたところハンセン病当事者の方に出会い、療養所を訪問し、話を聞き、繋がりが生まれました。

放送作家として、歌手として様々な経験とともに回り道をしてきたことが、思わぬ運命を招き入れることもある、この小説は自分にしか書けないのだとドリアンさんは感じました。

小説『あん』は、どら焼きを通じて元受刑者の雇われ店長の千太郎と、元ハンセン病患者のアルバイトの徳江が織りなす物語です。『あん』は映画化され、平成28年のカンヌ国際映画祭のオープニングフィルムとなりました。文化や宗教の違いがあっても、映画の中の「それでも生きる意味はある」という言葉に、世界中から称賛の声が上がりました。世のため人のために役に立つという生き方ができなくても、この世の美しい自然や他者を認識していることが、徳江の生きる意味となっていました。小説『あん』は13言語に翻訳され、今現在はコロナ禍の中で読む本としても、沢山の方に愛されています。

映画『スタートライン』

…生まれつき耳の聞こえない映画監督が、自転車で沖縄から北海道まで日本を縦断する自身の姿を描いたドキュメンタリー映画です。令和2年8月に三芳町のホームページに期間限定で公開されました。旅の中での沢山の人の出会いや関わりが描かれ、個性を理解し尊重し合うことが共生社会をめざすうえで重要だということをこの映画は教えてくれます。

広報みよし令和2年8月号に紹介されています。→



わたらしいわたしであるために

三芳町女性相談

女性の目線に立った悩み・困りごと相談

日時：毎月第2・4金曜日
午前11時～午後3時20分
(予約制)

場所：役場1階 住民相談室等
相談員：専門の心理カウンセラー(女性)

相談料：無料

申込：総務課 人権・庶務担当
☎049-258-0019(内線404)

※電話または面談での相談ができます。

秘密は固く守ります。

男性相談

男性(性自認を含む)全般の悩み相談

☎048-601-2175(直通)

日時：毎月第3日曜日
午前11時～午後3時

相談員：臨床心理士(男性)

相談料：無料

問合せ：With You さいたま
☎048-600-3800

※匿名での相談ができます。

※日時等は問合せ先にてご確認ください。

DV等に関する相談窓口

配偶者や恋人など親密な間柄で行われる暴力行為を、ドメスティック・バイオレンス(DV)といいます。DVは犯罪にもなる許されない行為です。《緊急の場合は迷わず110番》

実施機関・相談の名称	受付日	受付時間	電話番号
埼玉県配偶者暴力相談支援センター (埼玉県婦人相談センター DV相談担当)	月～土	9:30～20:30	048-863-6060
	日・祝	9:30～17:00 (年末年始を除く)	
With You さいたま (埼玉県男女共同参画推進センター)	月～土	10:00～20:30 (祝日・年末年始・第3木曜日を除く)	048-863-6060
警察安全相談 (東入間警察署 生活安全課)	月～金	9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)	049-269-0110
埼玉県警察犯罪被害者支援室	月～金	8:30～17:15 (祝日・年末年始を除く)	0120-381858
児童相談所全国共通ダイヤル	24時間365日対応		189
DV相談ナビ ※最寄りの相談機関の窓口に自動郵送	各機関の相談受付時間内		#8008

編集後記

新型コロナウイルスとの闘いは長期化し、大きな混乱の中で、外出自粛や在宅勤務への切り替えなど、ウイルスとの共存を前提とする「新しい生活様式」が少しずつ浸透してきています。生活様式の変化に伴い、従来の働き方、家族関係や家事分担方法に対する問題が目に見えるようになり、気づかされる部分があったのではないのでしょうか。

男女共同参画社会を目指すにあたっては、周りの人々や関係機関と協力しながら、社会の変化に柔軟に対応していくことが必要です。本誌で紹介した内容が、思いやりを持って家族や身近な人と関わる一助になれば幸いです。

ご意見・ご感想をお待ちしています。

〒354-8555 三芳町藤久保1100番地1

三芳町役場 総務課 人権・庶務担当
「まなざし・お便りコーナー」宛

FAX 049-274-1055

☒ soumu@town.saitama-miyoshi.lg.jp

令和2年度・3年度(第10期)

三芳町男女共同参画等推進会議委員

齊藤 富美江・山崎 和美・塩野 智恵
竹島 美香子・仲野 忠男・松村 克彦
横山 八重子・渡辺 秀行・志村 美代子
山崎 徳三・こども支援課長・観光産業課長

事務連絡
令和3年3月吉日

各位

三芳町総務課長

三芳町男女共同参画情報誌「まなざし Vol.19」の訂正とお詫び

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より当町の男女共同参画の推進につきましてご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、三芳町男女共同参画情報誌「まなざし Vol.19」において、間違った表記がございました。

つきましては、下記のように訂正をさせていただくとともに、関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

記

訂正箇所	訂正前	訂正後
P.8 DV等に関する相談窓口 With You さいたまの電話番号	048-863-6060	048-600-3800
P.8 DV等に関する相談窓口 児童相談所虐待対応ダイヤルの表記 ※電話番号は変更ありません	児童相談所全国共通ダイヤル	児童相談所虐待対応ダイヤル
P.8 DV等に関する相談窓口 DV相談ナビの※以下	自動郵送	自動転送

担当：三芳町 総務課 人権・庶務担当

〒354-8555

埼玉県入間郡三芳町大字藤久保 1100 番地 1

TEL 049-258-0019 (内線 404)

FAX 049-274-1055

E-mail soumu@town.saitama-miyoshi.lg.jp